

2025 年 6 月 15 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒23 番（旧 152 番）（KH 兄）

『聖なる聖なる聖なるかな』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 3~5、15~16 節（MM 姉）

『イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますでしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』

礼拝讃美歌⇒458 番

『ある夜に司の一人』

聖書⇒詩編 117 編（ES 姉）

『すべての国よ、主を賛美せよ。
すべての民よ、主をほめたたえよ。
主の慈しみとまことはとこしえに／
わたしたちを超えて力強い。
ハレルヤ。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 15 章 10~13 節

『また、／
「異邦人よ、主の民と共に喜べ」
と言われ、更に、／
「すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ」
とされています。また、イザヤはこう言っています。

「エッサイの根から芽が現れ、／
異邦人を治めるために立ち上がる。

異邦人は彼に望みをかける。」

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって
希望に満ちあふれさせてくださるように。』

聖書⇒イザヤ書 11 章 1、10 節

『エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／
その根からひとつの若枝が育ち

その日が来れば／
エッサイの根は／
すべての民の旗印として立てられ／
国々はそれを求めて集う。
そのとどまるところは栄光に輝く。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒241 番 (KH 兄)

『主の御稜威と』

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30 節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番（旧 94 番曲）

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒テモテへの手紙二 3 章 10~17 節（HK 兄）

『しかしあなたは、わたしの教え、行動、意図、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、アンティオキア、イコニオン、リストラでわたしにふりかかったような迫害と苦難をもいっていませんでした。そのような迫害にわたしは耐えました。そして、主がそのすべてからわたしを救い出してくださったのです。キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。悪人や詐欺師は、惑わし惑わされながら、ますます悪くなっていきます。だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。』

聖書⇒テモテへの手紙二 1 章 5~6 節

『そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。』

聖書⇒46:ヨハネによる福音書 1 章 45~46 節

『フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。』

聖書⇒テモテへの手紙二 4 章 13 節

『あなたが来るときには、わたしがトロアスのカルボのところに置いてきた外套を持って来てください。また書物、特に羊皮紙のものを持って来てください。』

聖書⇒マタイによる福音書 14 章 13~21 節（KH 兄）

『イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行きましょう。」

イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、群衆には草の上に座るようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 4 章 4~7 節

『主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。』

礼拝讃美歌⇒490 番（旧 276 番）（KH 兄）

『尊きかなわれさえ』

《建徳要旨》